

平和首長会議加盟自治体の皆様

平素より平和首長会議の活動にご支援・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。
平和首長会議の近況をお知らせします。

<<今号の内容>>

- ◆2015年NPT再検討会議に平和首長会議代表団が参加
- ◆小溝事務総長が大量破壊兵器使用100周年記念行事に出席
- ◆コーチ市（インド）でピースポートとともに平和行事を開催
- ◆ヒロシマ発平和関連ニュース[中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター提供記事]
- ◆加盟都市の活動紹介（ワッセナー市（オランダ））
- ◆支援者・協力団体の活動紹介（バイクフォーピース）
- ◆被爆樹木の苗木の配付事業及び「平和の灯」の分火事業のご案内
- ◆平和首長会議原爆ポスター展を開催しましょう！
- ◆「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名活動を展開しましょう！
- ◆4月の平和首長会議会長訪問
- ◆平和首長会議加盟自治体数：平和首長会議加盟自治体数：160か国・地域 6,675自治体

~~*~*~*~*~*~*

平和首長会議の最新ニュースはこちらでチェック！

ホームページ：<http://www.mayorsforpeace.org/jp/index.html>

フェイスブック：<https://www.facebook.com/mayorsforpeace>「いいね！」をお待ちしています。

~~*~*~*~*~*~*

=====

2015年NPT再検討会議に平和首長会議代表団が参加

[4月26日~5月1日、ニューヨーク市（アメリカ）]

=====

アメリカ・ニューヨーク市で開催された2015年NPT再検討会議に、広島市長、長崎市長、藤沢市長、タイ・バンコク知事、ノルウェー・フロン市長をはじめ7都市の代表、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める署名活動に取り組む広島・沖縄の高校生10名からなる平和首長会議代表団が出席しました。

同会議では、広島・長崎両市長がNGOセッションでスピーチし、各国政府関係者等に核兵器の非人道性や「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組の必要性等を訴えました。

また、平和首長会議の主催により「ヒロシマ・ナガサキアピール集会」、「平和首長会議ニューヨーク集会」、「2015平和首長会議ユースフォーラム」を開催し、被爆者から次代を担う若者まで幅広い年齢層の市民、そして多くのNGO関係者の参加を得て、被爆地のメッセージを対外的に強く発信するとともに、平和首長会議による取組の輪を広げることができました。「ヒロシマ・ナガサキアピール集会」では、ガンバ国連軍縮担当次席上級代表に、平和首長会議からの要請文及び「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める約110万筆の署名目録を手渡しました。

さらに、クルツ オーストリア外務大臣及びシャインマン米国大統領特別代表と面会し、核兵器廃絶に向けた一層の努力を要請するとともに、核軍縮に関する情勢についての意見交換を行いました。

=====

◆小溝事務総長が大量破壊兵器使用 100 周年記念行事に出席

[4月23日、イーペル市（ベルギー）]

平和首長会議副会長都市であるベルギー・イーペル市は、第一次世界大戦中の1915年4月、史上初めて毒ガス攻撃を受けた都市として知られています。その攻撃から100周年を記念して、4月22日～24日、イーペル市と平和首長会議2020ビジョンキャンペーン協会の共催で国際会議「大量破壊兵器の一世紀」が開催されました。

会議では、「大量破壊兵器の廃絶について啓発活動を進めているイーペル市と平和首長会議の取り組みに感謝する」というバージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表の挨拶のほか、毒ガス攻撃に関する専門家や被害者によるスピーチ、化学兵器や核兵器に関する発表やパネルディスカッション等が行われました。

小溝事務総長は、23日の会議において「原爆が広島に与えた影響」というテーマでプレゼンテーションを行いました。被爆の実相とその後の復興について説明するとともに、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という被爆者のメッセージを紹介しました。さらに、核兵器の非人道的影響に関心が高まる中、世界中の人々が被爆地を訪れ、核兵器が絶対悪であることを共通認識とすることが必要だと強く訴えました。

▼関連記事

国際会議「大量破壊兵器の一世紀」ウェブサイト（英語）

http://www.gas1915.be/images/filelib/ProgramConferenceEngFinalLR_63.pdf

◆コーチ市（インド）でピースボートとともに平和行事を開催

[4月25日～29日、コーチ市（インド）]

被爆70周年を迎える今年、平和首長会議はピースボートと連携し、世界各地で被爆体験を次世代に継承していく「過去と今の対話」プロジェクトを実施しています。これは、ピースボートが主催する「ヒバクシャ地球一周証言の航海」（通称おりづるプロジェクト）の寄港地において、被爆当時子どもだった被爆者が、被爆当時の自分たちと同じ年頃の子供たち、そしてその親たちと対面し、対話するプログラムです。

4月に始まった今回の船旅では、4月27日に平和首長会議リーダー都市であるコーチ市に寄港。平和首長会議スタッフがレセプション、平和集会、被爆体験講話会等の行事に参加しました。また、広島を平和記念公園内で採火されてピースボートでインドまで運ばれた「平和の灯」が分火され、今後、コーチ市役所前の公園内で灯され続ける予定です。さらに、コーチ市で収録された同市市長や現地の若者等のビデオメッセージが、NPT再検討会議期間中、国連本部内で平和首長会議が主催した行事において放映されました。

7月まで続く今回の船旅の期間中、インド、ベルギー、ドイツなどの10カ国で「過去と今の対話」プロジェクトが実施される予定です。

▼関連情報

ピースボートウェブサイト「おりづるプロジェクト」について

<http://peaceboat.org/projects/hibakusha?pj=about>

▼関連記事

ピースボートウェブサイト スペシャルレポート（英語）

<http://peaceboat.org/english/index.php?page=view&nr=445&type=20&menu=64>

◆ヒロシマ発平和関連ニュース（連載第7回）

[中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター提供記事]

=====

5年に1度、4週間にわたって開かれる核拡散防止条約（NPT）再検討会議が4月27日、米国ニューヨークの国連本部で始まりました。被爆地広島から、平和首長会議の会長である松井一実広島市長や、被爆者をはじめ多くの市民が現地を訪問しました。その中には、中国新聞のジュニアライターとして平和をテーマに取材・活動している高校生2人の姿も。既成概念にとらわれない10代の若者が何を取材し、何を訴え、そして何を考えたのか。皆さんも、ぜひ記事をお読みください。

関連記事は次のアドレスで読めます。

○ジュニアライターNPT再検討会議へ 10代の目線で各国の姿勢追う

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=42779>

○ジュニアライターも取材 NYでのデモ出発式や被爆者行進

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43680>

○「核のない世界 協力して実現」 ジュニアライターが岸田外相取材

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43734>

○若者の役割考える 中国新聞ジュニアライター パネル討議で質問

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43785>

○被爆の痛み発信 NPTユースフォーラム 「同じ思いさせたくない」

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43841>

○若者の役割再認識 ジュニアライター NPT取材 テレビ電話で報告

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43959>

○高校生2人による報告

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=44063>

○ホロコースト（ユダヤ人大虐殺）を学ぶスタディーツアー関連

・参加した大学生の感想

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43195>

（ヒロシマ平和メディアセンター提供）

=====

◆加盟都市の活動紹介

=====

*ワッセナー市（オランダ）

NPT再検討会議に先立ちオランダ外務大臣と意見交換

4月24日、オランダの平和首長会議代表であるワッセナー市のフーケマ市長は、IPPNW（核戦争防止国際医師会議）オランダ支部のスペインヤード代表とともにオランダのバート・クーンデルス外務大臣を訪問し、NPT再検討会議出席のためにニューヨークを訪れる外相と核廃絶の重要性について協議しました。

この中で、フーケマ市長とスペインヤード代表は、世界の首長にとって市民の安全を守ることが最重要課題であること、ひとたび核兵器が使われれば医師は治療の術を持たないことを十分に認識するよう要望し、核使用の防止こそが進むべき唯一の道であり、NPT再検討会議の成功が緊急の課題であることを強調しました。また、外相の健勝と会議での活躍を祈念して被爆者と日本人学生によって折られた千羽鶴が外相に手渡されました。

▼加盟都市の活動（平和首長会議ウェブサイト）

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/activites/memberscity/index.html>

<< 貴自治体の平和活動の情報をお知らせください >>

平和首長会議ホームページの「加盟都市の活動」コーナーに掲載する情報をお待ちしています。

貴自治体における平和に関する様々な事業の情報をぜひお知らせください。

貴自治体のホームページにリンクする形でご紹介しますので、記事のタイトル、英語版の有無、リンク先等の詳細を、次のアドレスにご連絡ください。

▼Eメール: mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp

=====

◆支援者・協力団体の活動紹介

=====

*核廃絶を訴える自転車ツアー「バイク・アウェイ・ザ・ニュークリア・ボムズ」

サイクリングを通じて核兵器廃絶を訴えているノルウェーの平和団体「バイクフォーピース」は、平和首長会議の取組への協力を掲げています。NPT 再検討会議を前に、バイクフォーピースは平和首長会議及び核実験反対の署名キャンペーン「ATOM プロジェクト」と共同して「バイク・アウェイ・ザ・ニュークリア・ボムズ」を実施しました。これは、核の脅威への関心を喚起するとともに、各国政府に対し核廃絶への合意を求めることを目的とした自転車ツアーで、平和首長会議副会長であるノルウェーのフロン市長を含む参加者一行は、4月21日にワシントンDCを出発。経由地で市長訪問や講演を行いながら、4月24日にニューヨークの国連本部前に到着しました。ニューヨークでは一行を歓迎するイベントが開催され、国連関係者や各国外交官等が参加しました。

▼関連情報

バイクフォーピースウェブサイト（英語）

<http://www.bikeforpeace.info/2014/BikeForPeaceAroundTheWorld.pdf>

▼関連情報

ATOM プロジェクトウェブサイト（英語）

<http://www.theatomproject.org/2015/04/bike-away-atomic-bomb-ride-completes-nonproliferation-tour-united-nations/>

=====

◆被爆樹木の苗木等の配付事業及び「平和の灯」の分火事業のご案内

=====

平和首長会議では、平成25年8月の第8回平和市長会議総会において策定された行動計画の具体的取組である被爆樹木の苗木等の配付事業及び「平和の灯」の分火事業を昨年度から開始しました。

4月1日から30日までに、羽曳野市（大阪府）にアオギリとクスノキの苗を、ラドリエ・オブ・ドラヴィ市（スロベニア）にイチヨウの種を配付しました。また、コーチ市（インド）に「平和の灯」を分火しました。

被爆樹木の苗木又は「平和の灯」の受け入れを希望される場合、所定の申請書をEメール又はFAXにて事務局までお送りください。

※ 被爆樹木の苗木の配付については、配付本数に限りがあるため、万一不足することになった場合は翌年度以降の送付となりますので、あらかじめご了承ください。

※ 両事業は、通年で行っているため特に申請期限はありません。また、来年度以降も継続して実施しますので、来年度以降の受け入れについても、是非ご検討いただければ幸いです。

▼Email: mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp

▼FAX: 082-242-7452

=====

◆平和首長会議原爆ポスター展を開催しましょう！

=====

平和首長会議では、加盟都市の5000突破を契機として、平和首長会議原爆ポスター展に国内外の加盟都市を挙げて取り組んでいます。

現在までに新宿区（東京都）や堺市（大阪府）、ロンドン市（イギリス）、ボルゴグラード市（ロシア）、

カブール市（アフガニスタン）など、290 を超える都市がポスター展を開催しています。

引き続き、ポスター展の開催にご協力ください。

※ポスター概要：標準サイズ A2 版、18 枚

▼ポスター展の詳細及びポスターのダウンロード：

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/ecbn/projects/poster/index.html>

=====
◆「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名活動を展開しましょう！

- 国連に 110 万筆の署名目録を提出

=====
2020 年までの核兵器廃絶を実現するために最も効果的な方法は、世界のすべての国が「核兵器禁止条約」を締結することです。「核兵器禁止条約」とは、核兵器の製造、保有、使用等を全面的に禁止する条約です。

その早期実現を目指し、2011 年 11 月の理事会及び 2012 年 1 月の国内加盟都市会議において、条約の交渉開始等を求める市民署名活動を加盟都市を挙げて展開することが決定されました。署名活動は第 8 回総会で決定した行動計画にも掲げられています。

皆様のご協力により、2015 年 5 月 1 日現在、2,048,607 筆の署名が集まっています。

4 月 26 日、ニューヨークで開催された「ピース・フェスティバル」において、平和首長会議代表団はアンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表とタウス・フェルーキ NPT 再検討会議議長に、昨年 4 月から今年 4 月までに寄せられた約 110 万筆分の目録を手渡しました。また、4 月 27 日に平和首長会議の主催により開催された「ヒロシマ・ナガサキアピール集会」においても、バージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表に同日録を手渡しました。

今後とも、全加盟都市を挙げて積極的に署名活動を展開しましょう。

(署名はインターネットからも可能です。)

▼署名用紙 (PDF)

http://www.mayorsforpeace.org/data/pdf/01_monthly Updating/11_petitionform_jp.pdf

▼オンライン署名

<https://www.ssl-z.city.hiroshima.jp/pcf/jp/form.htm>

▼関連情報：広島市の市民署名活動の展開

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/0000000000000/1333414321137/index.html>

=====
◆4 月の平和首長会議会長訪問

=====
松井一實広島市長・平和首長会議会長は、4 月に次のような海外からの来訪者の表敬訪問を受けました。その際に平和首長会議の取組及び加盟要請への協力をお願いしました。

*4 月 3 日 (金) タウス・フェルーキ アルジェリア外務省大臣顧問 (NPT 再検討会議議長)

*4 月 14 日 (火) エヴゲーニー・ウラジミロヴィッチ・アフアナシエフ 駐日ロシア連邦大使

*4 月 17 日 (金) キャロライン・ケネディ 駐日アメリカ合衆国特命全権大使

▼関連情報

広島市/日々の動静—2015 年 4 月

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1427871599552/index.html>

=====
◆平和首長会議加盟都市数：160 か国・地域 6,675 自治体

=====
皆様のご理解とご協力により、今月 27 自治体が新たに加盟し、平和首長会議の加盟都市数は 5 月 1 日現

在で6,675自治体（160か国・地域）となりました。

日本国内では、愛知県稲沢市が加盟し、国内加盟都市数は1,560自治体（加盟率89.6%）となりました。

海外については、テヘラン平和博物館の呼び掛けにより、イランの23自治体が新たに加盟し、同国の加盟都市数が651自治体となりました。この他、インド、ドイツ、ハンガリーからそれぞれ1自治体が加盟しました。

引き続き近隣未加盟自治体や姉妹都市への働き掛けなど皆様のご支援をよろしく申し上げます。

▼5月1日付新規加盟都市一覧

http://www.mayorsforpeace.org/data/pdf/2015/newmembers1505_jp.pdf

▼加盟自治体マップ

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/membercity/map.html>

*** 本メールニュースに関するご意見、お問合せ、
連絡先変更等は下記までご連絡ください***

平和首長会議事務局

〒730-0811 広島市中区中島町1-5

（公財）広島平和文化センター 国際部 平和連帯推進課

TEL:082-242-7821 FAX:082-242-7452

Email: mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp